

玄米の移行係数は土壌により大きく異なる

福島県総合センター 作物園芸部稲作科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収量の把握

研究課題名 水稻の放射性物質の吸収量の解析

担当者 藤村恵人・佐藤誠

I 新技術の解説

1 要旨

玄米への放射性セシウムの移行を推定するには土壌の違いが移行係数(玄米濃度(Bq/kg DW)/土壌濃度(Bq/kg DW))に及ぼす影響を明らかにする必要がある。そこで、県内に広く分布する土壌4種について移行係数を明らかにしたので報告する。

(1)玄米への移行係数は土壌間で約8倍の差異がある(図1)。

2 期待される効果

(1)放射性セシウム汚染リスクの低減に活用できる。

3 活用上の留意点

(1)土壌名と土壌からの放射性セシウムの吸収されやすさは必ずしも一致はしないため、注意が必要である。

(2)供試品種はひとめぼれで、ポット栽培で行った結果である。

Ⅱ 具体的データ等

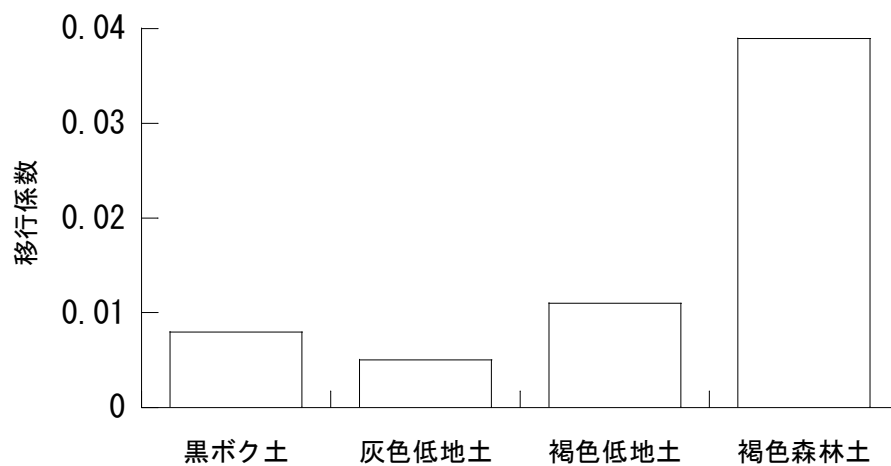


図1. 土壌別の玄米へのCs-137移行係数.

$$\text{移行係数} = \text{玄米濃度 (Bq/kg DW)} / \text{土壌濃度 (Bq/kg DW)}$$

Ⅲ その他

1 執筆者

藤村 恵人

2 実施期間

平成23年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度 福島県農業総合センター試験成績概要
- (2) 農業及び土壌の放射能汚染対策技術国際研究シンポジウム発表要旨(ポスター発表)